

速報1 三井屋工業株式会社 東北事業部：無所属会派の視察は2日目、米沢市に工場進出した三井屋工業（本社愛知県豊田市）を訪問視察。

町田市議会無所属会派 吉田つとむ 2023.07.19 記



三井屋工業株式会社東北事業部 視察

町田市議会無所属会派の視察は2日目、米沢市と、同市内の2企業を訪問視察。2023.07.19

まずは、米沢市の工業団地に進出した、自動車内外装部品製造の三井屋工業株式会社 東北事業部を訪ねました。この日は、愛知県豊田市より来られた高橋直輝社長、及び、執行役員の奥田照彦東北事業部部長、山田勝則主査の3氏より、受け入れと説明をいただきました。



三井屋工業株式会社は、トヨタ自動車をはじめ、自動車メーカーに部品供給を行う、いわゆる下請けメーカーという部類の企業になります。豊田市以外に、トヨタ自動車が工場を持つ福岡県若宮町や、宮城県黒川郡内にあるトヨタ自動車東日本の工場に納入するために開設したこの米沢工場などとなっています。

工場の特徴は、大半を自動化した大型装置を配置した工場であり、就業者を極力減らしたタイプの工程管理がモニターに数値化されたスタイルが特徴でし

た。いわゆるトヨタ自動車採用している（していた）看板方式が、今のパソコン、タブレット方式に切り替わった方式に見えました。その生産システムの積み上げは、それ自体が生産品となり、外販が可能な生産管理ソフトとして作成されていました。

動画：三井屋工業株式会社訪問 1：高橋社長にインタビュー。ペーパー日報から電子日報へ、集積が続き、【ハイコネックス】としてまとめ、現在では外販化をしている 2023. 07. 19

<https://youtu.be/EfOJQE1cHIQ>

（説明）三井屋工業株式会社訪問 1：本社から駆け付けていただいた、高橋社長に新井議員が、インタビュー。工場内の作業に関する日報作成方式を、現場のペーパー記帳・転載方式から、作業者が個々にタブレットで記入する電子日報方式に転換。PC で一元管理する方式を確立する。事業集積を進め、その生産管理を DX 化したものを【ハイコネックス】としてまとめ、現在では外販化をしている。高橋社長が製品販売の PR。2023.07.19 吉田つとむ発見動画チャンネル

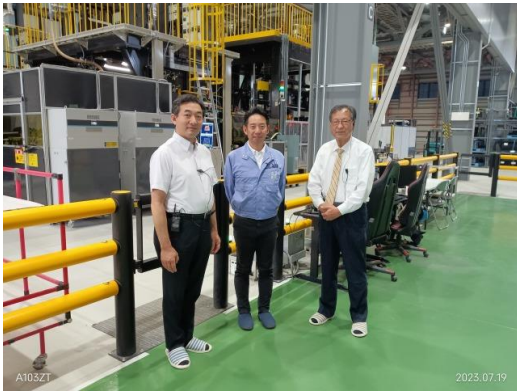
三井屋工業株式会社 東北事業部は、同社にとって最新の工場となっていますが、他の工場は開設時期によって生産性が異なることで工場の就業者数が異なっているとのことでした。

以下、質問したのは、この工場の就業稼働時間を尋ねると、1 直体制であるそうなので、時期的に 2 直体制が取られるとのことで、企業的には全面的に 2 直体制が目標であるでしょう。

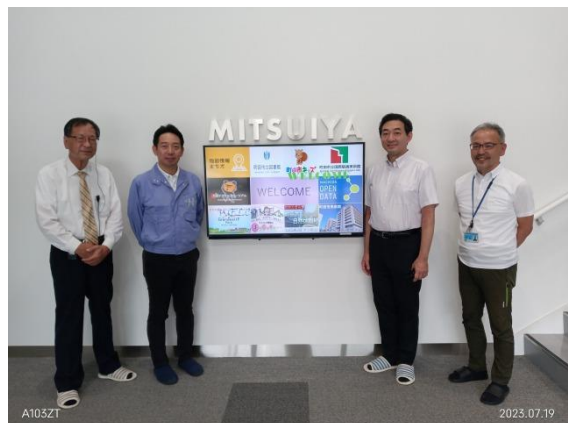


また、工場現場と言うのは、如何に不良品をいかに減らすかが課題（コストダウン化）であり、また、そうした不良品（あるいは規格外の）部材をいかに元の原料に戻せるかが重要な課題になっていました。これは、どの企業にも求められる課題になっていました。人によるチェックから機械化してチェックす

る方式に転換されていきました。*もとより、人間の目が重要であることは何事も欠かせません。



そこにあった RDF（廃棄物固形燃料）は、議員初当選時に、町田市のごみ処理技術に採用されるべきではないかと私自身考えていましたが、それ自体が高エネルギー性を持つことで、自然発火における爆発の可能性を否定できないあり、他の自治体の導入経過例から無理ではないかと考えたものでした。現場での説明でも、RDF が冷却を必要とするものである趣旨のものでした。よって、大半が粉碎処理で再生産化して、元の素材に変換される方式が採用されているとのことでした。



また、その後の質問で、（失礼ながら、）社長のタイプを尋ねました。三井屋工業株式会社に就職して、現在の社長の職にある、つまり、生え抜き社長でるとのことでした。この質問は、系列の上部企業や金融機関から天降り就任なのか、あるいは2世社長なのかを問うものでした。（第1報）この続きは、報告書の本文となります。